



令和2年UR賃貸住宅居住者定期調査結果について

独立行政法人都市再生機構（以下、UR都市機構）において令和2年11～12月に「UR賃貸住宅居住者定期調査」を実施しましたので、その結果を公表いたします。

本調査は、UR賃貸住宅にお住まいいただいているお客様の現状やニーズを定期的に把握し、UR賃貸住宅をより一層住みやすい住宅としていくために、昭和40年から5年ごとに行っているもので、今回は12回目となります。

<調査結果のポイント>

- ◆ 年少人口の減少幅と高齢人口の増加幅が縮小し、少子高齢化の進展が緩やかに
- ◆ 共働き世帯の増加と65歳以上の有職率の上昇により、世帯年収が増加
- ◆ UR賃貸住宅への居住意向は63.1%となり、幅広い世代から選ばれる結果に
- ◆ 単身世帯を含む多くの高齢者が積極的にコミュニティ活動に参加
- ◆ 子育て面の評価では「緑が豊かな環境」等、充実した屋外環境が高い評価

【調査概要】

調査対象：UR都市機構が全国で管理している714,432戸（令和2年6月30日）のUR賃貸住宅のうち、四大都市圏に存する583,648戸を母集団として62,229戸を抽出

調査期間：令和2年10月26日～令和2年12月23日

調査時点：令和2年11月1日現在

調査方法：郵送配付、Web回収（5ヶ国語対応）＋郵送回収＋訪問回収

回収票数：48,573戸（回収率78.0%）

集計方法：地域別・管理開始期別・住宅型式別に重みをつけ、母集団に戻して集計

お問い合わせは下記へお願いします。

UR都市機構 本社 住宅経営部 営業推進課 （電話）045-650-0737

本社 総務部 広報室（報道担当） （電話）045-650-0887

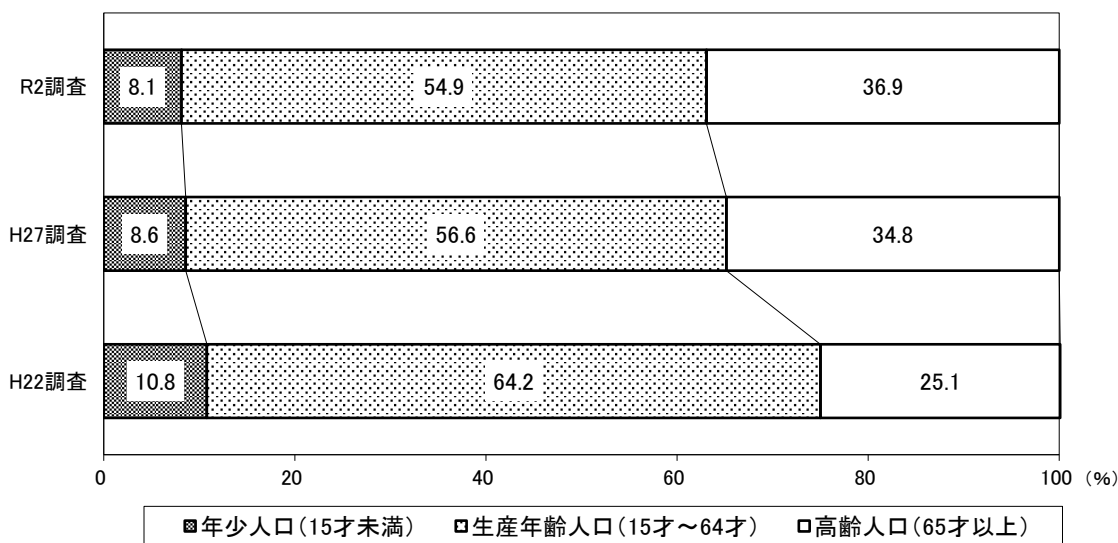
<居住者属性・就業状況>

調査年度	家族人数	居住者年齢	人口		共働き世帯	高齢世帯有職率	世帯年収
			年少人口	高齢人口			
R2調査	1.94人	52.7歳	8.1%	36.9%	41.1%	41.5%	470万円
H27調査	2.00人	51.2歳	8.6%	34.8%	36.7%	38.8%	453万円
H22調査	2.12人	46.6歳	10.8%	25.1%	37.3%	37.3%	484万円

◆ 年少人口の減少幅と高齢人口の増加幅が縮小し、少子高齢化の進展が緩やかに

- ・ 65歳以上の高齢人口は36.9%で平成27年調査より上昇し、年少人口が10%を切る状況に変化はないが、これまでと比較すると、少子高齢化の進展が緩やかとなっている。

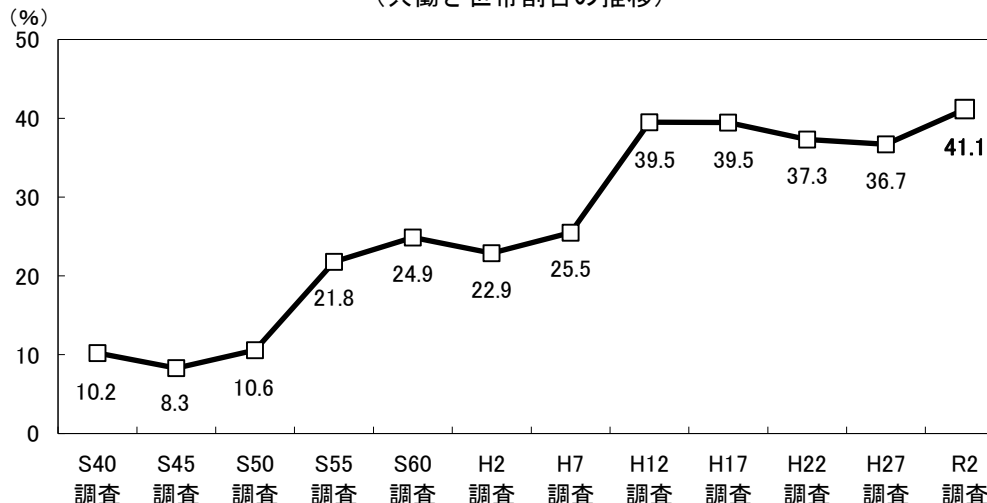
(年齢層別人口構成)



◆ 共働き世帯の増加と65歳以上の有職率の上昇により、世帯年収が増加

- ・ 共働き世帯（夫婦のいる世帯のうち夫婦ともパート・アルバイトを含む職に就いている世帯）の割合は41.1%で、減少傾向から大きく増加に転じ、初めて4割を超えた。

(共働き世帯割合の推移)



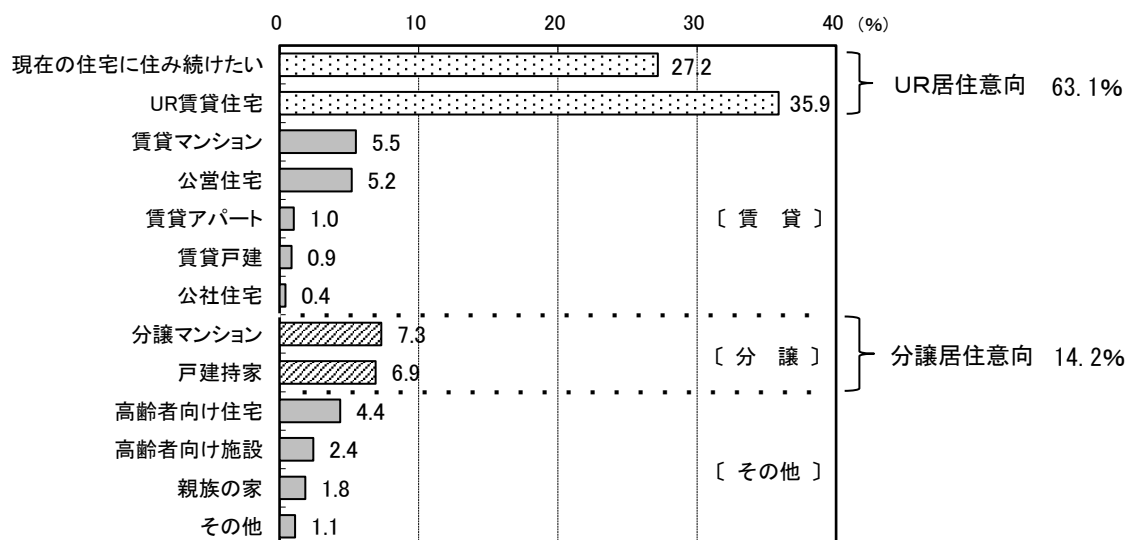
<居住意向・コミュニティ活動・子育て面の評価>

調査年度	居住意向		コミュニティ活動				子育て面の評価			
	UR賃貸住宅	分譲	参加世帯の年代構成		参加世帯の家族構成		総合満足度	満足度が高い項目		
R2調査	63.1%	14.2%	①70歳代 49.5%	②60歳代 14.9%	③50歳代 14.6%	①単身世帯 37.2%	②ファミリー 35.0%	③夫婦のみ 23.6%	75.4%	①緑が豊かな環境 ②小学校が近い ③公園・遊び場が充実

◆ UR賃貸住宅への居住意向は63.1%となり、幅広い世代から選ばれる結果に

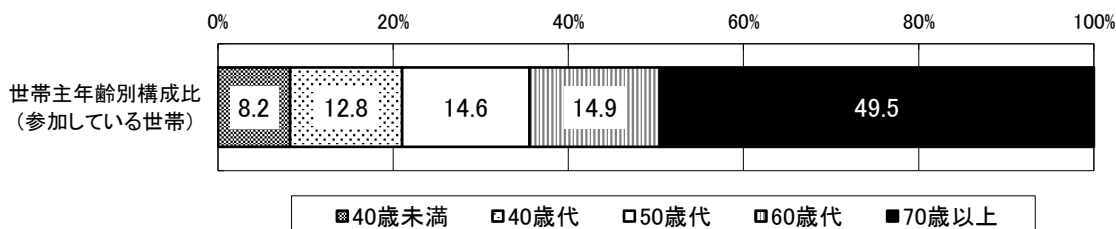
・「現在の住宅に住み続けたい」が27.2%、今後、住み替えを考慮する住宅として「UR賃貸住宅」が35.9%で最も多くなり、UR賃貸住宅への居住を希望する世帯の割合は6割を超えている。

(居住意向と住み替える場合に選ぶ住宅)



◆ 単身世帯を含む多くの高齢者が積極的にコミュニティ活動に参加

・コミュニティ活動に「参加している」世帯のうち、「70歳以上」の参加が約半数で最も多い。



◆ 子育て面の評価では「緑が豊かな環境」等、充実した屋外環境が高い評価

・子育て面での総合満足度は75.4%となった。【小学生(12歳以下)の子どもがいる世帯のみ回答】

